令和５年12月９日（土）
北杜市教育部学術課

北杜市武川町・柳澤地内

坐場（ぬたば）遺跡 現地説明会資料

●遺跡立地と調査概要

坐場遺跡（ぬたばいせき）は山梨県北杜市武川町柳澤地内に所在する、縄文時代中期中葉（約5,000年前）・中期末～後期初頭（約4,500年前）・晩期（3,000～2,500年前）・平安時代（約1,000年前）の集落跡です。従来、この場所が遺跡であることは知られていませんでしたが、令和４年11月に実施した県営ほ場整備工事に先立つ試掘調査によって、新たに発見されました。

試掘調査では、工事範囲（約57,000㎡）のうち約13,000㎡において遺跡の広がりを確認しましたが、調査開始直後から数多くの縄文時代の住居跡が発見され、相当な調査期間を要することが想定されました。こうした状況から、今後の工事日程への影響を考慮して協議を重ねた結果、切土造成等の工事によって遺跡が壊されてしまう約5,000㎡を対象に本調査を実施し、残りは盛土造成で保存することとしました。本調査は、令和５年２～３月に第１次調査、令和５年４月から第２次調査を実施しています。

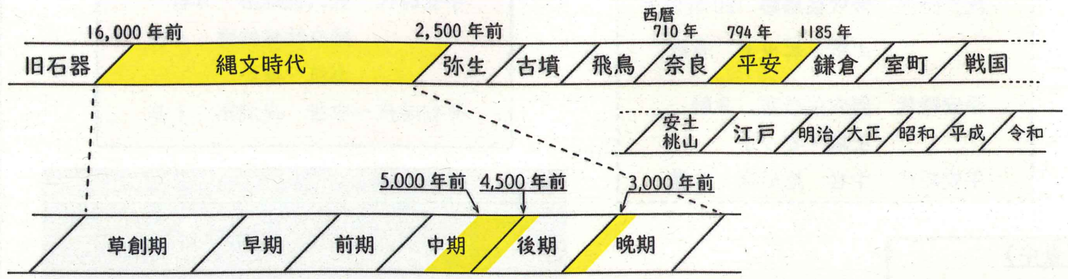
●発見された遺構・遺物

第１次調査（令和５年２～３月）

・発見された遺構　縄文時代晩期の住居跡２軒、配石遺構２基、集石遺構２基。
・発見された遺物　晩期初頭の土器（清水天王山式、大洞B1式、安行２式～３式ほか）
　土製品（三角形土製品１点、耳栓71点、土偶２点ほか）

第２次調査（令和５年４月～実施中）

・発見された遺構
　縄文時代中期中葉（藤内～井戸尻式期）　竪穴住居跡ほか
　中期末（曽利Ⅴ～加曽利E4式期）　配石遺構、土坑、掘立柱建物跡ほか
　後期初頭（称名寺式期）　柄鏡形敷石住居
　平安時代　竪穴住居跡、掘立柱建物跡
　平安時代～中世　炭焼窯



【調査区全景】

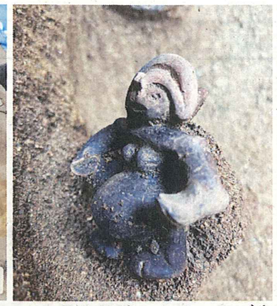
坐場遺跡は、「石空川（いしうとろがわ）」右岸の扇状地端、東西約80m、南北約220mの北向きの傾斜地に立地します。縄文時代中期中葉から平安時代まで断続的に人々が集落を営んでいたことが分かりました。

【遺跡堆積状況】

現在の耕作面から、約180㎝下で縄文時代の生活面を確認しました。その上には、縄文時代以降の度重なる土砂の流入により、砂が厚く堆積していました。その結果、現在に至るまで遺跡が壊されず、良好な状態で発見されました。

【12号住居跡（中期中葉）】

縄文時代の竪穴住居跡は、直径約５mの円形を呈し、壁際には柱穴が巡り、中央に炉が設けられています。複数回、建替えを繰り返した住居が多く、長期にわたり安定してこの地で集落を営んでいたことが分かります。



【15号住居出土土偶】

15号住居跡からは、ほぼ完形の土偶が出土しました。お腹が大きく出っ張り、蹲踞（そんきょ）の姿勢であることから、妊婦が座って出産する様子を表現していると考えられます。全身が非常に丁寧に磨かれ、精巧に作られています。

【25号土坑出土】

【12号住居出土】

【12号住居土】

【15号住居出土】

坐場遺跡では、顔面装飾が多数出土しています。すべてに共通する目尻が少し吊り上がった目元の表現は、この地域の特徴のひとつです。しっかりと焼き上げられ、細部にいたるまで丁寧に文様を施す精巧なつくりは、周辺地域の出土例と比較しても群を抜いています。こうした顔面装飾が複数個出土するのは珍しく、本遺跡を特徴付ける遺物の一つです。ほとんどが、顔面装飾が単独で出土しており、首から下がどのような造りなのか分かっていません。

【環状配石遺構（中期末）】

石を環状に配し、その間には土器が埋設されています。配石の下には土坑があることが分かっており、墓の上に石を配置したとする説もありますが、現状でははっきりしません。この時期の環状配石遺構は県内でも珍しい事例です。

【柄鏡形敷石住居】
（後期初頭）

床面または壁際に石を敷き、円形住居の出入口部が長方形に突出し、柄鏡の形に似ていることから「柄鏡形敷石住居」と呼ばれてます。北杜市内では、珍しい事例です。

【縄文時代晩期・住居跡】

令和４年度に実施した第１次調査では、縄文時代晩期の住居跡が発見されています。壁際に礫を巡らせ、中央に炉を設けています。晩期の集落跡は、北杜市内でも非常に珍しく、この時期の暮らしを紐解くうえで重要な事例です。

【縄文時代晩期】
出土遺物

晩期の住居内からは、多くの耳栓（耳飾り）や土版が出土しました。耳栓は透かし彫りを施した精巧なつくりで、中には赤色に彩色したものもあります。

現在の調査区

盛土保存

盛土保存

【現在の調査区・遺構分布状況】

調査区①　（現在調査中）

・発見された遺構

縄文時代　竪穴住居跡　多数
　　掘立柱建物跡
　　土坑・ピット
　　配石遺構
　　柄鏡形敷石住居

平安時代　竪穴住居跡　４軒
　　掘立柱建物跡　１棟
　　土坑　ほか

平安時代～中世　炭焼窯　１基

調査区②　（盛土保存範囲）

・発見された遺構

縄文時代　竪穴住居跡　30 軒以上
　　土坑・ピット　多数

平安時代　竪穴住居跡　３軒
　　土坑・ピット

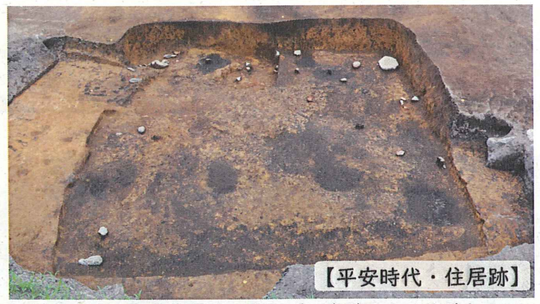
平安時代～中世　炭焼窯　２基

調査区③　（Ｒ５．７～９月調査）

・発見された遺構

平安時代　竪穴住居跡　５軒
　　掘立柱建物跡　４棟
　　土坑　ほか

平安時代～中世　炭焼窯　１基


【平安時代・住居跡】

平安時代の竪穴住居跡は方形で、東壁または北壁にカマドが設けられています。住居内からは、食膳具である坏や皿、甕の他、金属製の紡錘車などが出土しています。

0　　100(m)